

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3992600027		
法人名	有限会社 沙羅		
事業所名	グループホーム しらゆり		
所在地	高知県幡多郡黒潮町下田の口2153		
自己評価作成日	平成27年7月1日	評価結果 市町村受理日	平成27年9月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>野鳥や虫の音が聞こえる自然に囲まれた場所にあり、ゆったりと過ごして頂きながら、職員が利用者様一人ひとりの状態を把握し、早期の相談や対応ができるよう、家族様や関係機関との連携を大切にしています。</p> <p>地域の外れに位置しているため、近所に民家が少ないですが、小学生や老人クラブと交流を行ったり、地域の清掃や行事に参加して、秋祭りには御神輿が回って来てくれるなど地域の一員として受け入れて頂いています。</p>
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kajokensaku.jp/39/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kihon=true&JigyosyoCd=3992600027-00&PrefCd=39&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	平成27年8月11日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は平屋建てで、同一法人の小規模多機能型居宅介護事業所が併設しており、利用者が互いに交流できるようになっている。管理者と職員は、理念とする「地域に愛され、いつも笑顔で家族のように、心よせ合い楽しく暮らす」ことの実現に向けて取り組んでいる。</p> <p>運営推進会議には、開催案内している5地区中2～3地区の区長の参加があり協力的である。また、地域の清掃活動や秋祭りに職員が参加し、祭の神輿が事業所に訪れるようになったり、事業所の夕涼み会では、地域住民がやぐらの設営や太鼓の演奏を行い、児童を含む地域住民が参加する等、開設後8年が経過する中で、地域交流が深まっている。</p> <p>職員は、利用者の思いを大切に家族のように接して、その人らしい暮らしの実現を目指して取り組んでいる。自然環境に恵まれた住み慣れた地域の中で、利用者が安心して暮らせるように、管理者及び職員は、和気あいあいと利用者と共に気兼ねなく生活しながら、日々の支援に努めている。</p>
--

自己評価および外部評価結果

ユニット名:

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、常に職員が目に見ることができる場所へ掲示しており、念頭において実践できるようにしている。	「地域に愛され、いつも笑顔で家族のように心よせ合い、楽しく暮らす」ことを理念とし、毎月のスタッフ会等で共有している。管理者、職員は地域の一人として活動し、利用者の思いを大切に家族のように支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の外れにある為、日常的な交流はできていないが、地域の行事や清掃作業などに職員が参加することで、地域とのつながりができている。また、事業所の行事などに参加してもらって交流しており、利用者や地域の方に楽しんで頂いている。	町内会に加入し、職員が地域の清掃作業や秋祭りに参加している。事業所の夕涼み会には地域住民の参加協力があり、年間行事の中で小学校や老人クラブ、地元吹奏楽団等が来訪している。また、近隣住民から、花や野菜の差し入れもあり地域の一人として交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて、グループホームや併設している小規模多機能型事業所について説明を行っており、理解して頂いている。また、地区の小学校との交流会を通じて、高齢者や認知症のことを知ってもらえるよう取り組んでいる。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所内の出来事の報告を行ない、質問や意見について話し合っている。特に防災については積極的な意見やアドバイスを頂いており、サービス向上に活かせるように努めている。	運営推進会議は、メンバーの参加状況も良く活発な意見が出され、双方向的な会議になっている。外部評価等の目的についてメンバーで共有を図り、評価結果や目標達成計画を報告し、改善に向けて取り組んでいる。欠席した家族には、議事録を送付している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町担当者や地域包括支援センターへ分らないことや困ったことがあれば、気軽に相談することができている。	運営推進会議や福祉施設関係者連絡会での意見交換や、介護保険制度に関する相談等を通じて協力関係が構築できている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束・虐待防止委員が中心となって、事業所内で勉強会を行ったり、禁止行為がなかったか検討している。また、身体拘束をしない理念を職員全員に周知し、理念に基づいた介護に努めている。	職員は、外部研修会に毎年参加し、研修内容についてスタッフ会で共有している。外出傾向のある利用者には一緒に散歩する等、拘束のないケアを実践している。行動を抑制しないという言葉かけにも注意し、ミニカンファレンス等で共有している。拘束をしないケアに伴うリスクについても、家族に理解を得ている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止関連の研修への参加や勉強会を通じて、虐待がないか現状の把握と防止を行ない、職員の意識を高めていけるよう努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	制度を必要とする方がおらず、活用はできていないが、成年後見人制度の研修参加や勉強会を行い、職員は重要性を理解できており、必要な方には制度の案内をしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に制度の説明や事業所内の見学をして頂き、不安や疑問に思うことを尋ね、理解と納得が得られるように努めている。また、重要事項の変更や介護保険の改正がある場合には、個々に説明を行なっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会の開催や玄関外へご意見箱を設置している。面会時などに家族が気軽に要望や意向を言える、職員が伺えるような関係と環境づくりに努めている。また、家族会で出た意見や要望などを運営推進会議で報告している。	利用者の要望は、日々の関わりの中で聞いて対応している。家族の意見は、毎月のお便りや利用者の近況を知らせる等の関係づくりに努め、面会時に職員から声をかけて聞いている。家族からは行事や外出支援への要望があり、対応している。家族会は、年1回夜間に開催し、参加者も多い。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のスタッフ会で職員の意見や要望などがあれば、管理者会で代表者と一緒に話し合っている。代表者は前向きに検討し取り組んでくれている。	管理者は、職員の意見、要望を毎月のスタッフ会で聞き、反映に努めている。出された意見で必要な事項は、法人の管理者会で報告して、話し合っている。給与や有給休暇の取得等、勤務条件の改善に結びつけている。年1回、代表者と職員の意見交換の機会もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者が職員の個々の意見や要望を聞く機会を設けてくれ、働きやすい職場の環境や条件の整備の改善に取り組んでくれている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員が研修や勉強会に参加できるように計画している。研修に参加した職員はホーム内の勉強会で学んだことを報告し、他職員と共有し向上できるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2～3か月に一度、同系列の事業所リーダーが集まり、意見交換を行なっている。また、他施設の同業者が集まりネットワークづくりや勉強会などを行なっている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談や見学の際にはホーム内の様子や雰囲気を感じてもらい、本人や家族の不安なことや要望などを傾聴し、安心してもらえるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っていることや不安に思っていることなどに耳を傾け、要望を伺いながら、気軽に声をかけて頂けるように努めている。また、他のサービスを含めた対応が行えるような関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の要望や状況などを伺い、必要としている支援を見極めながら、他のサービスを含めた説明をしていき、希望に沿ったサービスが利用できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者との何気ない会話や日常生活の様子で、生活歴以外のことを知ることができ、本人にできることをお願いしたり、教えてもらうことで、楽しく一緒に生活ができる関係を築くことができている。また、面会時に家族に様子を報告し、話題が共有できるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>季節の行事には家族に参加して頂いている。面会時には家族に様子を報告し、話題の提供を行ったり、担当職員が中心となって気軽に話して頂けるようにより良い関係づくりに努めている。また、毎月お便りで利用者の近況を伝え、変わったことがあれば、電話で家族へ報告し相談を行なっている。</p>		
20	(8)	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>これまで生活してきた地域の話や、思い出の場所など利用者との会話の中に出て来ることがあり、思い出の場所や店などをドライブで訪れている。知人と会ったり、また面会に来てくれるなど関係が途切れないような支援に努めている。</p>	<p>職員は、利用者、家族、出身地区の職員等から情報を得て、個々の馴染みの関係を把握している。出身地区へのドライブや買い物時に知人に会ったり、併設事業所の利用者との交流等により、これまでの関係が途切れないように支援している。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>利用者同士の関係を把握し、孤立をしないように共通の話題を提供したり、レクリエーションでは一緒に輪の中に入れるものを取り入れるようにしている。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>他施設へ移る際には安心して移り住めるように、情報を提供している。契約終了後も様子を伺いに行ったり、家族と会うと状態を聞き、相談があればアドバイスを行なうなど、これまでの関係を大切にしている。</p>		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日常の会話の中で、職員が思いや意向などを把握している。困難な利用者には行動や仕草、また言葉などで思いを汲み取りながら、その人にとって良いケアになるように努めている。</p>	<p>日々の利用者との関わりの中で、利用者個々の暮らし方の希望や意向を把握している。意思疎通が困難な利用者の思いは、表情や反応から汲み取り、検討している。利用者の意向は、ミニカンファレンスで共有を図り、個人記録に残して支援に反映している。</p>	
24		<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>関係機関からの情報や、面会時に家族や本人から生活歴や生活環境を、プライバシーに配慮しながら情報の把握に努めている。また、関わりの中で新しく得た情報を職員が共有し、これまでの生活が継続できるように努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の心身の状態や生活のリズムを把握していきながら、その時の状態に応じた力が発揮できるように支援している。また、気付いたことや感じたことがあれば、職員が共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、担当職員が月のふり返り表を作成し、状態の把握に努めている。また、介護計画の見直しには家族や本人に要望などを伺い、職員の意見や気づいたことやアイデアを取り入れていきながら、現状にあった介護計画を作成している。	介護計画は3カ月毎又は状態変化時に見直している。利用者の状態や家族の意向は、担当職員による毎月の振り返り表やケアマネジャーによるモニタリング表に記載し、日勤職員全員が参加するカンファレンスを行い、介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は定期的な時間や項目などに囚われず、介護計画の実施やそれに関係する出来事・気づいたこと・参加できたことなどが記入できるように心がけている。また、介護計画の見直しの際には、職員が意見を出し合い反映できるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望を伺いながら、個々の状況を把握し、通院援助などその時に必要とされるニーズに対応できるような支援を心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の理髪店の方が来てくれ、散髪をお願いしている。また、地域の小学生や老人クラブ・吹奏楽団の方達と交流を行ったり、秋祭りには職員も参加している。神輿がホームの前まで来てくれ、お参りすることができるなど、地域の方と一緒に暮らしを支えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時には、家族や本人に希望を聞き、かかりつけ医を受診されている方と、月2回の協力医療機関の往診を受けられる方がいる。必要に応じて、家族や本人の意向に沿って、専門医への受診や通院援助などの支援を行なっている。	利用者及び家族が希望するかかりつけ医に受診している。協力医療機関による往診以外は家族が同行しているが、困難な場合は職員が支援し、状態変化時は家族と共に同行している。通院時は、書面で情報提供を行い、結果は家族やかかりつけ医に確認し、申し送りや業務日誌で共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問看護師が来られ、状態の報告や相談を行なっている。急を要する場合には、併設する小規模多機能の看護職員やかかりつけ医に相談し、早めの対応ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が必要な際は、家族や職員が説明を受け、介護サマリーで情報の提供を行なっている。入院中は面会や家族・主治医などから状態を伺い、把握に努めている。また、医療機関や家族と話し合いながら退院の計画を行なっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期について本人や家族の意向を踏まえ、事業所でできることを説明している。また、重度化の場合は、かかりつけ医や家族と話し合い、家族の意向を伺いながら今後の方針を共有し、支援ができるように取り組んでいる。	入居時に、看取りの指針に沿って事業所で対応できるケアを説明し、家族の意向を確認している。重度化した場合は、かかりつけ医、協力医、訪問看護師と連携を取り、家族と話し合いを重ねている。また、職員は看取りの希望に対応できるように外部研修に参加して、体制整備を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置・初期対応の勉強会や、AED使用の説明などの講習を行なったり、マニュアルを作成している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自然災害や火災、職員が少ない夜間帯を想定した避難訓練を定期的に行なっている。利用者の安全確保や避難誘導について防災係が中心となって、職員全員が話し合っている。また、運営推進会議でも議題として取り上げ、アドバイスや協力をお願いしている。	年2回避難訓練を行い、内1回は消防署の協力を得ている。町が実施する地震想定避難訓練にも参加している。避難後の生活のために利用者の個別健康管理票を作成し、消火器等の設備点検や3日以上非常用食料等も備蓄している。しかし、避難訓練に地域住民の参加協力が得られてない。	事業所は、地震発生時の津波による予想浸水地域になっており、運営推進会議等を活用して地域住民の協力が得られる取り組みや、職員と利用者が一緒に訓練を繰り返すことにより、確実な避難誘導ができることを期待したい。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、その本人に合った声かけができるよう心掛けている。また、職員同士が常に気にかけて、話し合いながら注意している。	職員は、利用者の尊厳に配慮して、トイレ誘導時等は表情や動作から思いを汲み取り、目立たないように声かけしている。言葉遣いで気になる点があれば、職員同士で注意し合い、スタッフ会で共有し、個人情報の保護についても、職員に徹底している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、本人の希望や思っている事などが引き出せるような声掛けを心掛けており、自己決定ができるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員が、利用者一人ひとりの日常生活リズムや習慣の把握に努めており、自分のペースで過ごせるよう希望を伺いながら、その人の状態に応じた支援を行なっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	現在、昔馴染みの理容室へ行ける利用者はいないが、近所の理髪店が訪問してくれ、希望に沿ったカットをしてきている。鏡を見ながら自分で整髪をしたり、外出時にはおしゃれをして出かけられるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日頃の会話の中で利用者に食べたい物や好きな物を聞き、メニューに取り入れれたり、季節の食材や菜園で採れた野菜などがあれば、メニューを変更している。下ごしらえや調理の手伝い、食事の準備や下膳などできることをしてくれている。	献立は、職員が利用者の希望を取り入れて交代で担当している。利用者は、野菜の皮むきや、テーブル拭き、下膳等可能な準備や片付けに参加している。職員は、利用者と一緒に食事をして、楽しい雰囲気になるように努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材の偏りに気をつけたり、食材をできるだけ多く使用するように心がけている。個々の状態に応じた食事形態・小皿への取分けや声掛け等を工夫している。水分量はチェック表で把握し、個々の好みに応じた物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けを行ない、一人ひとりの力量に応じて声掛けや一部介助などを行なっている。また、口腔スポンジやうがい液など口腔状態に応じたケアを行なっている。週1回は義歯洗浄剤を使用し、清潔に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄リズムの把握に努め、訴えや行動などに注意しながら、トイレの声掛けや誘導を行なっている。また、夜間オムツを使用している方も、日中はできるだけトイレで排泄ができるように、支援している。	日中は表情やしぐさ等で排泄パターンを把握し、利用者全員、夜間も少数のおむつ使用の利用者を除いて、トイレでの排泄を支援している。トイレへの誘導が下肢筋力の低下を防ぎ、排泄の自立にもつながることから、トイレ誘導に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便ができるように、乳製品や繊維質の多い食べ物を摂るように心がけている。また、適度な運動や十分な水分摂取ができるように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日や時間帯の設定はしておらず、本人の希望や状況に応じて対応している。入浴拒否がある場合には、声掛けの工夫やタイミングを見て、機嫌よく入浴して頂けるように努めている。	利用者の入浴希望に沿って支援している。入浴支援は午後が多いが、希望に応じて時間の変更や、毎日の入浴にも対応している。入浴を拒む利用者には、担当職員の変更や言葉かけの工夫により、入浴につなげている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムを把握し、自室で横になる時間を設けたり、その時の入眠状況を確認し、必要であれば休息して頂いている。また、日中傾眠が強い場合には、会話やレクリエーションへ参加をしてもらい、生活リズムが整うよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を個人ファイルや受診・往診記録ファイルへ保存し、全職員が見ることができるようになっており、一人ひとりの状態把握に努めている。誤薬防止マニュアルに沿って服薬支援を行なっている。また、処方薬や体調など変わったことがあれば、訪問看護師と情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意な事、出来る事を見極めながら、一人ひとりにあった手伝いをお願いし、役割として行なってくれる。コーヒーを飲むことを楽しみにしている利用者があり、起床時や10時の水分補給などには、好きな飲物を提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所へ散歩を兼ねて、回覧板を持って行ってもらっている。ドライブへは行きたい場所を伺い、季節の花を見に行くなど工夫している。また、家族と一緒に外食に出かけたり、墓参りを希望された時には家族へ相談し、出里へ連れて行ってくれるなど協力を得ることができている。	気候や体調に留意して、近隣への散歩や、週1回程度ドライブで花見や買い物に出かけている。車イスの利用者も、事業所前の駐車場まで出かけている。また、年1回、母体法人のリフト車を使用し、全員でドライブを兼ねて外食に出かけている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を手元を持っている方はいないが、家族から預かっていつでも使えると伝えることで、安心されている。ドライブで店へ寄った時には、好きなお菓子を選んでもらい、おやつに皆で食べてもらっている。預かっているお金は出納帳で管理し、物品を購入する場合には家族へ相談し、毎月レシートなどを付け報告している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の要望があれば、その都度支援している。家族からの手紙や孫から絵をもらった時には、代読したり本人に読んでもらってから部屋に飾るようにしており、いつでも目にすることが出来るようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族や職員が世話している花や観葉植物を持って来て飾ってくれたり、その季節に合った装飾を飾るように心がけている。また、園芸係が中心となって花や菜園の手入れをしており、野菜や花が成長している様子を見て、喜ばれている。屋内の温度は、温・湿度計で確認しながら調節しており、不快に感じないよう配慮している。	共用空間は、日当たりが良く、畳の間もあり、テレビやソファを配置して、利用者が思い思いにくつろげるようになっている。居間には、小学生との交流時に贈られた貝殻使用の作品や装飾品が飾られ、壁には、折り紙で作った季節の花や写真を貼り、居心地良く過ごせるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファを置いており、気の合った利用者同士で座ってくつろがれている。また、廊下や玄関先にはベンチを置いており、その時の気分で自由にひとりで過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていたタンスや布団など、使い慣れた物を持ち込んで使っている方もいる。物品購入が必要な場合は、自宅にないか伺っており、あれば持って来てもらっている。また、本人の描いたカレンダーや家族の写真などを飾って居心地よく過ごして頂けるように努めている。	居室は明るく、掃除が行き届き、備え付けのベッド以外は、テレビやタンス、寝具、家族写真等、利用者の好みの物が置かれ、その人らしい暮らしができるような居室にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの状態を把握し、見守りや声掛けを行ないながら、自分の力を活かしていけるように支援している。また、その時の身体の状態に合ったものを適切に使用しながら、安全に過ごせるように工夫している。トイレや居室などは分りやすいよう貼り紙などを行っている。		

ユニット名:

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない